

第63回 東海学生弓道秋季リーグ戦
運営マニュアル(仮)

目次

1. 試合進行表
2. 試合当事校
3. 当番校
4. 試合会場校
5. 審判校
6. 試合当日の流れ
7. 審判が当日行う業務
8. 順位決定及び入替戦・個人的中記録会
9. 試合中のトラブルシューティング
10. よくあるご質問

1. 試合進行表

《男子》

10:00	付矢開始
11:40	付矢終了
12:00	試合開始

《女子午前》

10:00	付矢開始
11:00	付矢終了
11:20	試合開始
14:10	(撤収完了) <small>※午後試合実施時のみ</small>

《女子午後》

14:30	付矢開始
15:30	付矢終了
15:50	試合開始

《男子三つ巴》

10:00	付矢開始
12:40	付矢終了
13:00	試合開始

《女子三つ巴》

11:00	付矢開始
12:40	付矢終了
13:00	試合開始

【諸注意】

- ・付矢開始及び付矢終了の時刻は「対戦校同士の事前の合意」及び「審判校への事前の連絡」があれば変更して良い。
- ・付矢の時間割り振りについては試合当事校同士で事前に決めておくものとする。これについては「試合当事校同士の事前の合意」の下に成り立つ。
- ・試合開始時刻は原則として遅らせない。但し、やむを得ず大幅に遅らせる場合は当番校が連盟委員長に事前連絡し許可を得ることを義務づける。
- ・女子午前の進行表に記載されている(撤収完了)については同日に同道場で女子午後の試合が行なわれる場合にのみ適用する。この時刻までに女子午後試合の試合当事校が準備できるよう、女子午前試合の試合当事校は撤収を完了させることを義務づける。但し、同中競射が発生し試合終了時刻が 13:50 を過ぎた場合に限り試合終了時刻から 20 分後までに撤収を完了させることを義務づける。この場合、女子午前試合の審判の者はその旨を結果報告と共にメールで送ることを義務とする。また、この場合に限り女子午後試合の試合当事校は試合開始時刻を許可なしに遅らせても構わない(当初の予定通り実施しても良い)。このことから、女子午後の試合も行う会場で行われる女子午前の試合については余裕があるならば試合開始時間を早めることを推奨する。

2. 試合当事校

- (1) リーグ戦の各試合において、試合を行う対戦校のことを「試合当事校」と称することとする。試合当事校には当番校(別名:ホーム校)とそうではない大学(別名:アウェー校)が存在する。
- (2) 次のことについて試合当事校間で試合 5 日前までをめぐり事前に連絡を取り合うことを義務づける。
 - (ア) 付矢の時間割り振りを含む当日のスケジュール
 - (イ) 当日の当番校ではない側の大学(アウェー校)の到着場所と時刻
 - (ウ) 付矢での的数
 - (エ) 試合会場となる大学の道場および控えを使う際の諸注意
 - (オ) その他事前に伝えるべき事柄
- (3) 付矢終了まで付矢を行うことができる。この際に矢が破損しても試合中での矢返しは認めない。
- (4) 当番校の指示によって掛けられた的を試合当事校の代表者が点検し変更を要求することができる。但し最終決定は審判が行う。
- (5) 試合開始時刻になった時に両校は整列し、メンバー用紙交換、矢振りによる先攻・後攻の決定を行う。
- (6) 的出し及び矢取りは立に入っている側の大学の部員が行い、的中確認を立に入っていない側の大学の部員が行う。
- (7) 選手交代は、該当する立が射位に入る前までに審判と相手校の両方に必ず知らせること。いずれか片方でも遅れた場合は遅れた立のその者の的中全てを失中とする。
- (8) 各立の制限時間を男子 15 分、女子 13 分、男子の連立を 30 分とする。この時間は当該校の者が道場に最初に入った時から最後の者が出るまでとする。尚、先攻の最初の 1 立目の開始を後攻の最後の者が出た時とし、後攻の 5 立目の終了をその立の的中確認終了時とする。
- (9) 競技終了後、両校は試合開始時刻になった時と同様に整列し、審判の結果発表を待つこと。
- (10) 試合当日の審判の運営のことで気になった点や不手際があれば、必ず委員長に詳細を連絡すること。

3. 当番校

- (1) リーグ戦の各試合において、試合当事校のうち1つの大学を中心に試合の事前連絡を行うものとする。その大学を「当番校(別名:ホーム校)」として指定し、試合当事校のいずれかが試合会場校となっている場合は原則としてその大学を当番校とする。
- (2) 順位決定戦および入替戦については連盟が日程発表時に当番校を指定する。原則として、各試合の当番校はその年に行う研修会にて決定する。
- (3) 当番校と試合会場校が異なる場合、当番校は次のことについて試合会場校と連絡を取り合った上で試合当事校および審判校に情報伝達、また試合当事校間で決まったことを試合会場校に連絡することを義務づける。
 - (ア) 付矢の時間割り振りを含む当日のスケジュール
 - (イ) 当番校の到着予定時刻
 - (ウ) 付矢での的数
 - (エ) 試合会場となる大学の道場および控えを使う際の諸注意
 - (オ) その他事前に伝えるべき事柄
- (4) 当番校は次のことについて、試合の5日前までをめぐりに試合当事校間で決めたことを含め審判校と必ず事前に連絡を取り合うことを義務づける。
 - (ア) 付矢の時間割り振りを含む当日のスケジュール
 - (イ) 審判の到着場所と時刻(道場に20分前までに着ける時刻であること)
 - (ウ) 試合会場となる大学の道場および控えを使う際の諸注意
 - (エ) その他事前に伝えるべき事柄
- (5) 試合用の的は原則として当番校が用意することとする。星的を用い、的紙を使用すること。的紙の貼る面に注意するとともに、的枠は形の整ったものを使用する。付矢的も当番校が用意するのが望ましい。
- (6) 付矢の順番は、当番校(ホーム校)が付矢を行ったのち他の大学(アウェー校)が付矢を行うものとする(合同付矢のみ実施する場合にはこの限りでない)。時間割り振り等は試合当事校同士で話し合って決めて構わない。

4. 試合会場校

- (1) 試合会場となる道場を所有する大学または市営の道場等を借りて道場提供していただいた大学を「試合会場校」と称する。
- (2) 試合会場校は順位決定戦や入替戦を除き基本的には当番校が試合会場校となる。但し、道場を所有していない当番校や日程発表後に道場が使えないことが判明した当番校の場合は試合会場校とは異なる場合がある。
- (3) 試合会場校と当番校が異なる場合、試合会場校は次のことについて当番校と連絡を取り合い確認すること。
 - (ア) 付矢の時間割り振りを含む当日のスケジュール
 - (イ) 当番校の到着予定時刻
 - (ウ) 付矢での的数
 - (エ) 試合会場となる大学の道場および控えを使う際の諸注意
 - (オ) その他事前に伝えるべき事柄
- (4) 的の付け替え、その他審判の要求に応じられるように常時数名の部員を待機させておく。
- (5) 幕がある場合には設置する。ない場合には設置しなくて構わない。
- (6) 矢立、弓立を用意し試合当事校の名前を明記する。
- (7) 射場外において巻藁を引けるようにしておく。
- (8) 黒板などを用意し、試合の経過や結果を明示できるようにしておく。
- (9) 以上のことにおいて、幕を除きやむを得ず用意ができないものがある場合には当番校または試合当事校に事前に連絡をしておくこと。

5. 審判校

- (1) リーグ戦各試合において、審判を務める大学を「審判校」と称する。
- (2) 審判校は主審 1 人、副審 1 人の計 2 人の審判を出すものとする。男子三つ巴のみ主審 1 人、副審 2 人の計 3 人の審判を出す。主審を務めるのは 2 年生以上で、審判経験者など慣例に詳しいものが望ましい。
- (3) 審判校は必ず、審判に行く者に連盟規約とこの運営マニュアルを前日までに読ませ、把握させておくこと(毎年、「連盟規約の内容について審判が分かっておらずに試合が中断された」などの不手際が多く報告されるためこのことは徹底させるようにしてください)。運営マニュアルのうち、5.審判校、6.試合当日の流れ、7.審判が当日行う業務、連盟規約の第 8 章審判規定と第 9 章競技規定の第 2 節リーグ戦規定及び第 3 節女子リーグ戦規定、以上の項目については特によく読み、当日には、当番校の者から最初の挨拶と的中確認、最後の挨拶の段取り等を聞き把握する。そして道場の規則等を良く聞き、リーグ戦の試合を仕切る審判としてふさわしい対応を取るように審判に伝えておくこと。
- (4) 審判校は当番校と事前に連絡を取り合った上で、当該試合の審判に行く者に情報伝達することを義務づける。
- (5) 審判の当日の持ち物については以下の通り。
 - (ア) リーグ戦運営マニュアル(この冊子)
 - (イ) 東海学生弓道連盟規約
 - (ウ) 矢筒と矢(甲矢 1 本と乙矢 1 本、三つ巴の試合では甲矢 1 本と乙矢 2 本)
 - (エ) ストップウォッチまたは時計
 - (オ) 記録用紙 2 枚
 - (カ) 郵送用の封筒および切手
 - (キ) 印鑑(主審の物)
 - (ク) 黒ボールペンと赤ボールペン 2 本ずつ(男子三つ巴の場合のみ 3 本ずつ)
- (6) 審判は必ず正装で当日の審判業務に臨むものとする。ここで言う正装とはスーツまたは弓道着で、靴下または足袋を着用した服装のことである。
- (7) 試合会場となる道場に 20 分前までに正装を着た状態で到着すること。但し、これについて当番校から事前に指定があった場合にはこの限りとしない。
- (8) 審判に不手際のあった場合は審判校に罰則が下る。特に遅刻については、やむを得ない場合や審判校以外の者に不手際があった場合を除き、厳重に処罰するものとする。

6. 試合当日の流れ

【付矢開始】

この時刻までに的が立っている状態とする。

【審判到着(試合開始 20 分前まで)】

試合開始 20 分前までに審判は正装を着た状態で道場近辺にいるものとする。審判が到着し次第、当番校は審判に対し、道場の規則や流れの確認と審判への指示をする。挨拶の仕方と的中確認の仕方についても事前にしておくのが望ましい。

【付矢終了】

この後、試合終了まで、試合の立以外での的前で射をしてはならない。

【的替え】

試合前の的替えでは当番校(ホーム校)の的見の後に他の試合当事校(アウェー校)が的見をし、最後に主審が的見を行う。

【試合開始】

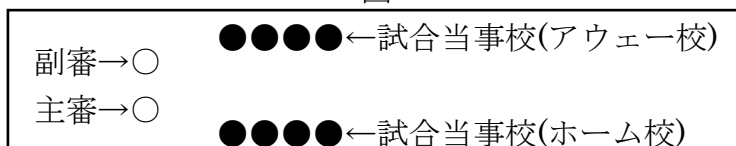
試合開始時刻になったら以下の図のように整列して試合開始の挨拶をする。試合当事校と審判の文言や手順についても以下に記す。

《試合当事校が 2 校(通常のリーグ戦)の場合》

主審「(整列していない場合)両校ご整列願います」

(下の図のように並ぶ)

図



主審「只今より、東海学生弓道秋季リーグ戦[男子/女子][○部(○ブロック)/○部
○部入替戦]、○○大学対○○大学の試合を始めます。試合に先立ちまして、
神前礼拝を行います。」

(審判に倣い試合当事校は神前礼拝を行う)

主審「両校主将によるメンバー用紙の交換を行ってください。」

(主審は両校からメンバー用紙を受け取る。副審は矢筒を取る)

主審「試合の先攻、後攻は矢振りによって決定いたします。ジャンケンで勝った
大学の方から先に矢をお取りください。」

(副審は、ジャンケンの後、矢筒から矢を段違いに出して、甲矢と乙矢の確認を試合当事校の代表者にしてもらう。)

副審「(矢を指し示しながら)こちらが甲矢、こちらが乙矢になります」

(試合当事校両校が確認を終えたらそのまま矢を取り出す。そして今度は筈を下にして矢を入れ、蓋をする。ついで、矢筒を背中に回し、よく振る。その後、矢を段違いに少し出し先程のジャンケンで勝った方の大学から引いてもらう。この際、甲矢を引いた方が先攻、乙矢を引いた方が後攻となる。)

主審「先攻〇〇大学、後攻〇〇大学で試合を開始いたします。尚、試合中の出来事に関しましては連盟規約並びに両校主将の話し合いによって処理いたします。双方、礼」

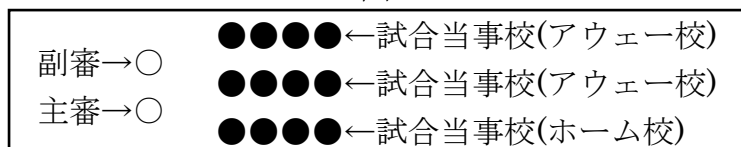
(両校挨拶をする。挨拶後副審は矢振りの矢を回収する)

《試合当事校が3校(三つ巴)の場合》

主審「(整列していない場合)各校ご整列願います」

(下の図のように並ぶ)

図



主審「只今より、東海学生弓道秋季リーグ戦[男子/女子][○部(○ブロック)順位決定戦/○部○部入替戦]、〇〇大学対〇〇大学対〇〇大学の試合を始めます。試合に先立ちまして、神前礼拝を行います。」

(審判に倣い試合当事校は神前礼拝を行う)

主審「各校主将によるメンバー用紙の交換を行ってください。」

(主審は各校からメンバー用紙を受け取る。副審は矢筒を取る)

主審「試合の先攻、中攻、後攻は矢振りによって決定いたします。まずは先攻を決めます。ジャンケンで勝った大学の方から先に矢をお取りください。」

(副審は、ジャンケンの後、矢筒から矢を段違いに出して、甲矢1本と乙矢2本の確認を試合当事校の代表者にしてもらう。)

副審「(矢を指し示しながら)こちらが甲矢、こちらとこちらが乙矢になります」

(試合当事校各校が確認を終えたらそのまま矢を取り出す。そして今度は筈を下にして矢を入れ、蓋をする。ついで、矢筒を背中に回し、よく振る。その後、矢を段違いに少し出し先程のジャンケンで勝った方の大学から引いてもらう。この際、甲矢を引いた大学が先攻となる。この後3本の矢を回収し甲矢と乙矢1本ずつを矢筒に入れる。)

主審「次に中攻と後攻を決めます。2校のうちジャンケンで勝った大学の方から矢をお取りください。」

(副審は、ジャンケンの後、矢筒から矢を段違いに出して、甲矢と乙矢の確認を試合当事校にしてもらう。)

副審「(矢を指し示しながら)こちらが甲矢、こちらが乙矢になります」

(1回目と同様の操作をする。その後、矢を段違いに少し出し先程のジャンケンで勝った方の大学から引いてもらう。この際、甲矢を引いた方が中攻、乙矢を引いた方が後攻となる。)

主審「先攻〇〇大学、中攻〇〇大学、後攻〇〇大学で試合を開始いたします。尚、試合中の出来事に関しましては連盟規約並びに両校主将の話し合いによって処理いたします。各校、礼」

(各校挨拶をする。挨拶後副審は矢振りの矢を回収する)

【試合中】

立が終わるごとに的中の確認を行う。以下に例を示す。大学ごとにやり方がある場合にはこの限りとしませんが、その場合事前に審判にやり方を伝えておくこと。

主審(安全を確認した上で)「お願いします」

看的(2回手を叩いた後)「入ります」

(看的の者が安土へ出てくる)

看的「確認します」

主審「はい」

看的「大前〇中です。・・・落〇中です」

主審「はい。ありがとうございました」(※的中が違った場合には「〇的もう一度お願いします」等と言ってもう一度確認してもらう)

【同中競射発生の場合】

試合開始の挨拶の時と同じように並ぶ。

主審「(整列していない場合)両校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって同中のため、只今より一手競射を行います。競射の先攻後攻は矢振りによって決定いたします。ジャンケンで勝った大学の方から先に矢をお取りください。」
(試合開始時と同じであるため中略)

主審「先攻〇〇大学、後攻〇〇大学で競射を開始いたします。後攻の大学は外に出てください。」

(両校解散。この時に副審は矢振りの矢を回収する)

【試合終了】

全ての立の行射が終了したら、試合開始の挨拶の時と同じように並び、試合終了の挨拶をする。試合当事校と審判の文言や手順についても以下に記す。

《試合当事校が2校(通常のリーグ戦)の場合》

主審「(整列していない場合)両校ご整列願います」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって〇〇大学の勝ちが決定しました。神前礼拝を行います」

(審判に倣い試合当事校は神前礼拝を行う)

主審「以上をもちまして、東海学生弓道秋季リーグ戦[男子/女子][〇部(〇ブロック)/〇部〇部入替戦]、〇〇大学対〇〇大学の試合を終わります。双方、礼」

《試合当事校が3校(三つ巴)の場合》

主審「(整列していない場合)各校ご整列願います」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、中攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって〇〇大学の勝ちが決定しました。神前礼拝を行います」

(審判に倣い試合当事校は神前礼拝を行う)

主審「以上をもちまして、東海学生弓道秋季リーグ戦[男子/女子][〇部(〇ブロック)/〇部〇部入替戦]、〇〇大学対〇〇大学対〇〇大学の試合を終わります。各校、礼」

【撤収完了】

同じ試合会場で午後にも試合がある、女子の午前試合のみこの時刻を設定。14時10分までに次の試合の大学が道場を使える状態になるように速やかに撤収を済ませること。但し同中競射で試合終了時刻が13時50分を超過した場合は試合終了時刻から20分後までを撤収完了時刻とする。超過した場合、審判は結果報告の際に何分超過したかをメールで連絡する。その試合会場で行われる午後試合については試合当事校同士の合意が得られればその分まで試合開始を遅らせても良いものとする。

7. 審判が当日行う業務

【審判到着(試合開始 20 分前まで)】

審判は、審判校が当番校から事前に連絡を受けた集合場所と時刻を守ること。この時には既に正装を着た状態であることが望ましい。5.審判校 に記載の内容についても把握しておく。試合会場となる道場に到着後、当番校から試合のスケジュールと道場の規則、挨拶や的中確認の段取り等についてよく聞いておくことを義務とする。携帯電話は着信音やバイブレーション等、音の出る機能やアラームの設定を予め解除しておくこと。

【的替え】

試合当事校が的見を行った後、最後に主審が的見をすること。

【試合開始】

試合開始の挨拶を行う。6.試合当日の流れ に記載されている文言を概ね把握しておくこと。リーグ戦を仕切る審判としてふさわしい態度と行動を取ること。必ずこの時に対戦校同士でメンバー用紙の交換をした上で審判も両校のメンバー用紙を受け取ること。

【試合中】

主審と副審でそれぞれ記録用紙に記録を取る。各立の制限時間を男子 15 分、女子 13 分、男子の連立を 30 分としてストップウォッチか時計で計測する。この時間は当該校の者が道場に最初に入った時から最後の者が出るまでとする。尚、先攻の最初の 1 立目の開始を後攻の最後の者が出た時とし、後攻の 5 立目の終了をその立の的中確認終了時とする。行射中に記録を取り、的中確認の際に、取った記録に間違いがないかどうかを再確認する。主審の記録と副審の記録は全く同じものになるようにする。的中確認の際は看的にいる者にはっきり聞こえる声で発する。

試合中は私語を慎み、携帯電話をはじめとした電子機器の操作を禁ずる。但し、台風接近時等、暴風警報発生の有無を確認する必要がある時は試合当事校に了承を取った上で、行射していない時のみ最低限の操作をすることを許可する。選手交代は 9 射目から認め、選手が射位に入るまでに当該大学が相手校と審判の両方に通知していなかった場合には遅れた立の当該選手の矢を全て失中として処理する。

【試合終了】

試合終了の挨拶を行う。試合開始の挨拶と同様に文言を概ね把握しておくこと。
リーグ戦を仕切る審判としてふさわしい態度と行動を取る。

試合終了後すぐにメールの送信と結果報告の郵送を行う。

【結果報告について】

試合終了後すぐに、メールでの試合結果報告と記録結果の郵送をお願いします。

時 刻：試合終了後すぐ

内 容：男女・所属リーグとブロック・対戦校・的中数など

※大学名、的中数をはっきりと間違いのないようにお願いします。

※ 報告はメールで行い、必ず確認メールが届いたかを確認してください。

(例文)

「リーグ戦[男子/女子][○部(○ブロック)/○部○部入替戦]、○○大学対○○大学の審判をしました○○大学(審判の大学名)の○○○○(主審または副審の氏名)です。試合の結果を報告します。先攻○○大学○中、後攻○○大学○中で○○大学が勝ちました。」

※このとき **20 射皆中者がいたら**、射士の名前と大学名、学年を伝える。

※同中競射が複数回行われた場合は、的中を合算せず分けて報告する。

【郵送について】

試合終了後、記入漏れがないか確認後、記録用紙を 1 部郵送する。残った 1 部は、郵便事故等が発生した場合に必要となるので、リーグ戦閉会式までは審判が保管しておくこと。

8. 順位決定及び本戦以外の試合について

《団体戦の順位決定》

団体戦の順位は勝数順により定める。団体戦において同勝数の場合は的中率で順位を決定する。

団体戦において同勝数の場合は的中率で順位を決定する。的中率が等しい場合は直接対決の結果を以て決定する。但し、各リーグ、各ブロックで最多勝数が並んでいる場合は当該大学による順位決定戦を行う。二校が並んでいる場合はリーグと同形式で順位決定戦を行い、三校以上が並んでいる場合は、的中率上位三校の三つ巴形式で順位決定戦を行う。順位決定戦を行う場合は同じリーグ(ブロック)に属さない大学の道場を原則使用する。

なお、I部優勝校については全日本学生弓道連盟主催の全日本学生弓道王座決定戦、全日本学生弓道女子王座決定戦への出場権を得る。

《入替戦》

各部入替戦は、上部最下位校と次の下部優勝校との間で行い、勝者を上部に組み込む。男女ともに、Ⅲ部とⅣ部の入替戦は三つ巴の形式で行い、Ⅳ部とⅤ部の入替戦はⅣ部の最下位校のうちの的中率下位校対Ⅴ部の優勝校のうちの的中率上位校、Ⅳ部の最下位校のうちの的中率上位校対Ⅴ部の優勝校のうちの的中率下位校で行う。入替戦においていずれのリーグ(ブロック)にも属さない大学の道場を原則使用する。

《個人的中記録会》

以下の項目全てに当てはまる者のみ之に参加する権利を得る。

- ① 相手校の棄権により、実績試合数が1試合であり、個人の規定射数を満たさない選手
- ② 順位決定戦・入替戦・同中競射の行射を除く全ての機会で行射をしている選手
- ③ 暫定の個人表彰該当者と比較し、表彰される可能性のある選手

以上全てに当てはまる者は、リーグ本戦が終了した週の次週または次々週に行われる個人的中記録会への出場権を得る。

この記録会は1立2手、5立の20射を行射し個人的中に加算するというもの。審判は学連役員が行う。応援は禁止とする。一定時間の付矢の後に試合を行う。いずれの参加者の大学のリーグ(ブロック)にも属さない大学の道場を原則使用する。

《個人戦の順位決定》

個人成績は、リーグ戦本戦において「実績試合数×20射×2/3」射以上かつ40射以上の矢数を最低限必要とし、同中競射は之に含まない。個人戦の順位は的中率により決定する。同的中率の場合は行射数の多い者を上位とする。また、同行射数の場合は同位とする。優勝者が複数になった場合は個人優勝決定競射を行い、優勝者を決定する。

男女個人成績において上位2名は全日本学生弓道連盟主催の東西学生弓道選抜対抗試合、女子東西学生弓道選抜対抗試合への出場権を得る。順位が同位の者が東西学生弓道選抜対抗試合の出場権を争う場合は、その決定方法は東西出場者決定競射によるものとする

個人優勝決定競射および東西出場者決定競射は1立2手、5立20射を行射して決定する。立順は矢振りによって決定し、1立ごとに立順を入れ替えるものとする。審判は学連役員が行う。応援は禁止とする。一定時間の付矢の後に試合を行う。いずれの参加者の大学のリーグ(ブロック)にも属さない大学の道場を原則使用する。

《全国大学弓道選抜大会への出場権》

的中率上位4校の大学は、次年度の全日本弓道連盟主催の全国大学弓道選抜大会への出場権を得る。但し、その年の大会での優勝校と射道優秀校に選ばれた大学は次年度の大会への出場権を得ているため、それが的中率上位4校に含まれる場合は順次繰り下げる。また、次年度の大会となるため、選手不足等で出場権を破棄する場合にも順次繰り下げる。

的中率が同じ大学が出場権を争う場合には、所属リーグ上部の大学が優先される。所属リーグが同じ場合には勝数の多い順、これも多い場合には直接対決の結果によって優先順位を決める。

9. 試合中のトラブルシューティング

★対戦校が遅刻した場合

どちらか一方の大学が会場に到着していなくても付矢開始してよい。

試合開始時刻に間に合わない場合は遅刻した大学の棄権とみなす。(但し公共交通機関の遅延などの正当な理由がある場合は除く。)

★確認前に矢に触れてしまった場合

その的全ての矢を外れとする。なお、接触行為の有無に関する判断は審判が行う。

★不明な矢が出た場合

副審が的場で確認する。主審との確認が取れるまで、決して矢に触れてはならない。 的中の規定については、学連規約第四十条を参照。

★不適切な選手交代がなされた場合 【連盟規約より抜粋】

第六二条・第八一条

試合開始前、当日の試合に出場する選手八人控え四人を審判員及び対戦校に通知する事を要する

第六四条・第八三条

試合中の選手交代は、九射目（三立目）以降之を認める。選手交代は控えの四人とし、同一試合の再出場は認めない。又、交代は立の交代時に之を行い、交代した立が射位に入る迄を期限として審判員及び対戦校に書面を以って通知することを要する。遅れた場合、その者のその立の的の中を失中とする。立位置の変更は之を認めない

★失矢について

○失矢については、「弓の本弦が膝から離れたあとに落ちた矢」を失矢とみなす。失矢かどうかの判断は審判が行う。 ※上記の失矢基準は日弓連とは異なっているので注意すること。

★監督・介添えの指導について 【連盟規約より抜粋】

第四九条

競技中(取懸より離れまで)以下の行為を行った場合、該当する的全ての矢を外れとする。

- (1) 射手以外の者が狙いを付ける又は指示する
- (2) 立位置を指導する
- (3) 矢声以外で明らかに指示と見られる発言をする
- (4) 体に触れて指導する

10. よくあるご質問